

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779101795		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家淀川		
所在地	大阪府大阪市淀川区十三元今里1丁目9番6号		
自己評価作成日	令和5年10月12日	評価結果市町村受理日	令和5年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和5年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設への利便性がよく、近隣には公園、商店街があります。コロナ感染症も緩和されご利用者様には公園などを利用し四季折々の移り変わりを感じて頂いたり、商店街へ買い物へいき心身の活性化をして頂き、地域の方々とは挨拶を忘れず繋がりをつくっていきたい。日々ご利用者様の状態、ADLは変化するため瞬時に職員が見極め、できることと出来ないことの判断をし一日の役割を決めて、家庭的な環境の中でメリハリをつけて笑顔いっぱい過ごして頂けるように関わっていきたい。職員も介護経験が長く、年齢もご利用者様と近い方が多く穏やかな空間の中で家族のように日々生活している。施設には看護師の配置があり、外部の医療と連携を図り入所から退所(看取り)まで安心安全に過ごして頂ける体制がある。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各ユニットの共用空間は広く、大きなガラス戸からの光で明るく、曲線のある形状の大きなテーブル席・応接セット・ソファ・マッサージチェア・テレビ等を設置し、キッチンを併設し、利用者が家庭的な雰囲気の中でくつろいで過ごせる環境である。介護経験の長い職員が多く、職員の定着がよく、利用者との馴染みの関係を築いている。PDCAサイクルに基づいたケアマネジメントにより、現状に適した個別支援に取り組んでいる。季節のイベント、日々のレクリエーション、家事参加等により、利用者が日常生活の中で季節や楽しみを感じ、心身機能の低下を予防できるよう努めている。看護師の配置があり、医療連携体制を整備し、希望に応じて看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所のビジョンを掲げ、申し送り時には唱和し共有と実践に努めている。	事業所の理念と年間ビジョンを作成し、玄関ホールと事務所に掲示し、申し送り時に唱和し共有を図っている。事業所の理念・年間ビジョンに、地域密着型サービスの考え方を明示している。期末に職員個々に振り返りシートを配布して実践状況を振り返る機会を設けている。管理者が職員の振り返りを集約して次期の年間ビジョンの作成につなげ、実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であったため交流までできていない。	コロナ禍のため通常の地域交流は行えていないが、町会に加入して管理者が町会連絡会に参加し、利用者や職員が近隣の方と挨拶や言葉を交わし、また、地域からの介護相談に対応する等、可能な形で地域とのつながりが持てるよう努めている。状況を勘案しながら、地域への外出も徐々に再開してる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であったため地域交流がなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍が緩和され2か月に一回外部の方に来訪して頂き開催し報告や話あいができ、意見交換やサービスの向上にいかせている。	利用者・家族・地域包括支援センター職員・町会長・事業所職員を構成委員としている。令和5年度は、4月は開催を休止し書面での報告としているが、6月以降は2か月に1回集合開催している。会議では、資料と「便り」をもとに利用者状況、行事・活動・研修、事故ヒヤリハット事例等を報告し、参加者から意見・要望等を聴き、事業所から回答している。議事録・資料・「便り」は、全家族に郵送し、また、運営推進会議のファイルを玄関に設置し公開している	運営推進会議の構成委員として知見者の参加が望まれる。

グループホーム たのしい家淀川

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括、社会福祉協議会などに伺い事業所の実績やサービスの取り組みについて連絡・相談することもある。	運営推進会議に地域包括支援センターから参加があり、連携している。報告事項や相談事項があれば、内容に応じて、市・区・地域包括支援センター・社会福祉協議会に問い合わせ、適正な運営や利用者・家族支援につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に研修を行い、日常から意識改革をおこなっている。2か月に一回身体拘束適正委員会をおこなっている。	「身体拘束等適正化のための指針」「身体拘束その他の行動制限に係わる指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。2ヶ月に1回、運営推進会議で「身体拘束適正化委員会」を実施し、外部の構成委員の意見も反映しながら適正化に向けた検討を行っている。委員会の議事録を各フロアで回覧し、周知を図っている。オンライン研修の年間研修計画に沿って、年に2回「身体拘束適正化」の研修を実施している。全職員が視聴し、確認テストの入力により受講を確認している。玄関は施錠しているがユニットの入り口・エレベーターは施錠せず、外出の希望があれば玄関前のスペースや近隣に職員が同行し閉塞感を感じないよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権及び虐待、身体拘束防止研修をおこなった後は職員ひとりひとりが自己点検をし結果面談をおこない、虐待の目チェックリストを使い職場会議で事業所の現状を把握し全体で防止に努めていく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人がついているご利用者様も入居しており、ある程度は理解している。今後も更に理解を深めていく。		

グループホーム たのしい家淀川

評価項目	自己評価	外部評価			
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は書面を使用し会社概要から事業所のビジョン、運営方針、金銭面などご理解、納得頂けるまで説明します。サービス内容については介護支援センターから説明しています。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様からは日常会話から意見、要望を聞き、意識しています。家族様とは面会や訪問された時に直接ご意見、要望を聞き職員間で共有して反映させて頂いています。玄関わきにも意見箱を設置しています。</p>	<p>利用者の意見・要望は日々のコミュニケーションの中で、家族の意見・要望は面会や来訪時、また、電話連絡時に把握に努めている。行事等の写真を多く掲載したユニット毎の「便り」、運営推進会議記録と資料等を郵送し、利用者や事業所の近況を伝え、意見・要望が出やすいように取り組んでいる。玄関に意見箱も設置している。把握した内容は申し送りや申し送りノートで共有し、支援に反映できるよう取り組んでいる。また、年に1回、法人が家族満足度アンケートを実施している。</p>	
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンスや月一回のユニット会議で意見交換しています。意見交換した後は優先順位を決めて解決していきます。</p>	<p>不定期ではあるが、各ユニットでユニット会議を行い、利用者についての情報共有と検討、業務についての検討を行い、職員の意見・提案を反映できるよう取り組んでいる。日々の検討事項については、都度カンファレンスで検討し、申し送りや申し送りノートで共有している。定期的には年に1回、随時にも管理者が面談を行い、職員の意見・提案を個別に聴く機会も設けている。従業員アンケートを年1回実施し、職員が法人に意見・提案を伝える仕組みもある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>総合施設事業、誰伸び制度、チャレンジキャリアへの挑戦などで個々の給料水準向上をおこなっている。</p>		

グループホーム たのしい家淀川

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育ではなく育成の取り組み。月一回の研修制度。会社独自の座学、技術が向上できるようなチャレンジキャリアへの挑戦制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍が継続したため他施設との交流ができなかった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスの段階からご家族様や本人様と話す機会を幾度ともち必要な情報を職員間で共有して本人が混乱しないように傾聴をおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や訪問時に情報収集させて頂き関係づくりに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の段階からご本人、ご家族様とお話しをさせて頂き、福祉用具や訪問診療、訪問歯科、訪問理美容など必要に応じて対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で一緒に家事手伝いをして人として喜怒哀楽の感情をともに共感する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所前から本人の状況や症状を把握し家族様が施設と一緒に支えていく意識や必要性を説明する。状況に応じて家族様と本人様の通話機会を設けている。		

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人様には日時の予約をして頂 いた上で面会時間内にきて頂けるように努 めています。	家族や友人・知人と、基本的には事務所で、 状況に応じて居室での面会を再開し、馴染み の人との関係継続を支援している。電話や手 紙の取り次ぎも行っている。状況を勘案しな がら、馴染みの場所への外出も徐々に再開 する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	テーブルの配置や座席の位置などを考え 利用者様同士で会話が弾むように支援して いる。孤立しそうな時は職員が寄り添い関 わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入院や他社への相談にのり支援 に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入所前はアセスなどでご本人、ご家族様の 生活歴を伺い把握する。 入所後は日常会話や行動などで思いなど を把握する。	利用者の思いや暮らし方の希望・意向につ いて、入居前のアセスメントで把握した内容は、 「フェイスシート」に記録し、介護記録や支援 に反映できるよう取り組んでいる。入居後の コミュニケーションの中で把握した内容は、申 し送りや申し送りノート等で共有している。把 握が困難な場合は、表情・行動・発語等から 汲み取り、意向に沿った支援ができるよう努 めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	継続してご家族様からは詳しく情報収集を していく。施設や入院された施設などは担 当者やケアマネから経過等の把握に努め ている。		

グループホーム たのしい家淀川

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々申し送り、伝達ノート、カンファレンス等で職員同士で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録に日々の様子を記録し問題や支援について職員や家族と話し合いをもち作成している。	初回の介護計画は、「フェイスシート・アセスメントシート」「ケアチェック表」をもとに担当者会議を開催して作成している。必要があれば随時、定期的には3ヶ月毎に「評価表」でモニタリングを行い、6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。介護計画見直しの際は、「評価表」でモニタリングを、「ケアチェック表」で再アセスメントを行い、担当者会議を開催している。聞き取りで把握した利用者・家族の意向も、担当者会議議事録に記録している。サービスの実施状況は、タブレット内の介護記録と各種記録(排泄・入浴等)に記録している。	介護記録の「項目」の選択を活用し、介護計画に基づいた実施が明確になる記録の工夫が望まれる。介護計画見直し時に主治医等の関係者の意見があれば、担当者会議議事録に記録することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子やケアの実践、結果、気づきの工夫を記録して申し送りやカンファレンス、連絡ノートで職員間で情報収集する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携による訪問介護、訪問マッサージ、往診、病院受診の際は介護タクシーなど多岐にわたりサービスの紹介を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力を得て避難訓練を年2回実施。今後は地域のボランティアの方にもきて頂き催し物などを再開していきたい。		

グループホーム たのしい家淀川

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に家族様の意向や状況を聞きながら、入居してからかかりつけ医にするか施設の連携医に受診していくか選択してもらっている。	入居時に事業所の医療体制を説明し、利用者・家族の意向に沿った受診を支援している。入居前からのかかりつけ医を継続することも可能である。連携医による内科・精神科・歯科の往診を受けられる体制がある。他科については外部受診になり、家族の同行が基本であるが、状況に応じて管理者や看護師が同行している。往診時には事業所の看護職員が立ち会い、「申し送り事項」に事業所からの申し送りと医師からの受診結果を記録している。伝達事項があれば「申し送りノート」で共有している。	利用者個々の受診状況（往診・外部受診）や経過が明確になるよう、介護記録・支援経過記録等に個別に記録を残すことが望まれる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の身体状況、食事量、水分量、排泄状況の変化など看護師に相談し適切に対応できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会したり、家族様と連絡をとり退院の目途、準備を支援している。又病院関係者とも連携をとり病院のカンファレンスの場にも同席させて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態に応じて家族様、職員、主治医と話し合いをもちチーム支援に取り組んでいる。	契約時に、重要事項説明書内の「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」を説明して同意を得、「急変時・終末期における医療等に関する意向確認書」で意向を確認している。看取り介護の事例もある。重度化を迎えた段階で、家族・主治医・事業所で話し合い、家族の意向を確認している。家族に看取り介護の希望があれば「看取り介護の同意書」で同意を得ている。看取りに向けた施設サービス計画を作成し、家族・主治医・薬局・事業所で連携して支援に取り組んでいる。オンライン研修の年間研修計画に沿って、「看取り」研修を実施している。	

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応については研修をおこない実践できるように育成している。又AEDを設置して使用方法の講習を実施している。	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施している。地域と協力してハザードマップを確認したり、社内でBCPマニュアルを作製して自然災害にも備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や尊厳が守られるようにカンファレンス等で職員間で話し合いをもつ。定期的に研修会の機会を活用して利用者様の対応について振りかえっている。	オンライン研修の年間計画に沿って、利用者尊重・誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応等について学ぶ各種研修を実施している。研修の中でチェックリストを用いて不適切ケアについて振り返りを行い、別途面談や研修を行い不適切ケアの防止に取り組んでいる。ユマニチュードをもとに話し合う機会も設け、意識向上に努めている。利用者の写真や映像の使用については、契約時に同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の表情や言葉の変化を見逃さず、ご利用者様がどうしたいのか把握し支援していく。	/	

グループホーム たのしい家淀川

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思を尊重しながら心地良く生活が進むように希望にそっていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を選ぶのが難しくなっている方でも同じ服ばかりではなく様々な衣類が着れるように関わっている。2カ月に一度は訪問理美容に来て頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に味見や後片付けをする。ホットプレートなど使用する際は調理にも参加してもらう。	炊飯は各ユニットで行い、委託業者から配達された食事を湯煎し、各ユニットで調理した一品を添えて提供している。利用者個々の状態に応じた食事形態への対応も、各ユニットで行っている。季節や行事に合わせた食事やおやつを企画したり、誕生日には利用者のリクエストメニューを提供したり、ホットプレートを使用した食事・おやつレクリエーションを行うなど、利用者が変化を楽しめるよう取り組んでいる。日常的にも、食事・おやつレクリエーションの時にも、利用者が可能な作業に参加できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や家族様と相談しながらひとりひとりにあった食事・飲料の提供をしている。状態により食事の形態もかえている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方は自身でして頂く。無理な場合は職員がフォローする。定期的に訪問歯科にきて頂き状態に応じた支援をしていく。		

グループホーム たのしい家淀川

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し職員間で共有しできる限りトイレで排泄ができるように努めている。	排泄の自立度に個人差が大きい状態であるが、タブレットの排泄記録で排泄状況や排泄パターンを把握し、昼間は可能な限りトイレでの排泄が継続できるよう支援している。介助方法や排泄用品の使用について検討事項があれば、各ユニットで随時カンファレンスを行い、申し送りや申し送りノートで共有しながら現状に適した支援につなげている。業者によるおむつ講習会も実施している。排泄介助時のドアの開閉・声かけ方法等、プライバシーへの配慮を周知している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量、食事の内容等に注意し散歩、体操など運動することを心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひとりひとりの希望、状態にあわせて入浴を楽しめるように支援している。	一般浴槽での個浴で、週2回の入浴を基本とし、利用者の体調・気分・希望に応じて日や時間を調整し柔軟に対応している。タブレットの入浴記録で実施状況を確認している。利用者の身体状況や希望に応じて、シャワー浴と足浴でも対応している。職員とマンツーマンで会話しながら、自分のペースでゆっくりと入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく寝れるように居室掃除やシーツ交換、換気などで清潔保持する。リビング内にもソファやマットチェアを置き休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については申し送りやノートで情報共有し服薬の理解を深め支援していく。		

グループホーム たのしい家淀川

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々カラオケ、手芸、生け花、習字など開催し楽しく充実した支援をしていく。家事手伝いも負担にならないようにして頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の状態を見極め散歩や買い物、喫茶店や外食にでかける。	コロナ禍のため通常の外出は休止しているが、天気の良い日には玄関前の花壇で水やりをしたり、事業所周辺を散歩する等、個別に戸外に出る機会を設けている。今年度は、近隣の公園に花見に出かけている。状況を勘案しながら、家族との外出も徐々に再会している。日課としての体操・体を動かすゲーム・家事参加等により、心身の機能低下の予防に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族者や後見人の方から預かり金として施設が預かり、買い物などいった時は預かり金から使うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の状態により家族様と電話を取り次いでいる。手紙の場合も職員が間にはいりお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には季節感のある絵や手作りの作品をかざっている。リビング内はCDをつかい昭和の曲などを流している。	各ユニットの共用空間は広く、大きなガラス戸からの光で明るい。曲線のある形状の大きなテーブル席・応接セット・ソファ・マッサージチェア・テレビ等を設置し、利用者が思い思いにくつろげる環境に配慮している。利用者と一緒に制作した季節の装飾を飾り、季節感が感じられる。ユニット内にキッチンがあり、調理・後片付けの作業・洗濯物干し・洗濯物たたみ等に参加できるよう支援し生活感を取り入れている。利用者間の関係性に配慮して配席を工夫し、穏やかに楽しく過ごせる環境づくりに努めている。	

グループホーム たのしい家淀川

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや応接セットを置いて自由な雰囲気 気がだせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思いでの写真や家具などを徐々にそろえて いき、少しでも安心して頂ける空間、生活を めざす。	居室も大きなガラス戸からの光で明るく、広 い空間である。クローゼット・洗面台・ベッド・ コールボタン等が備えつけられている。たん す・椅子・テーブル・テレビ・冷蔵庫等の使い 慣れたものや、自作の絵・写真・仏壇等の馴 染みのあるものが持ち込まれ、居心地良く過 ごせる環境づくりが行われている。利用者 個々の身体状況に合わせて家具の配置を工 夫し、安全に生活できるよう配慮している。居 室担当職員が中心となり、家族・職員と協力 しながら、衣替えや環境整備を支援してい る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	自室やトイレの場所がわからなくなる方の 為、ご利用者様が見えやすいように大きめ の矢印や表示をはっている。		